

pp.29~39

○ルネサンス魔術とパラケルスス

・ヘルクス思想

アラビア錬金術はヨーロッパに流入してもしばらく原型のまま

↓
しばらくしてヨーロッパ独自に定着していくにつれて、

ヘルクス思想

ユダヤ教神秘主義

キリスト教神秘主義

魔術 etc.

これら、当時ヨーロッパの宗教的要素が附加され、

ルネサンス魔術の一部門として

ヨーロッパ錬金術が発展していくことになる

ヘルクス・トリス・キリストス (イタリ)

1460年に「ヘルクス文書」を執筆→メテオ家によりラテン語訳

(邦訳には同家の医師マレノ・オフィーノ)

ヘルクス思想: 「神化こそこそが認識を有する人々のための善も最終である」

「自己を神と等しくしないなら、神を知解することはできない」

↓
人を神化する、という最終目標、

(→神の所業の模倣→人命令をその創造、という論法?)

・パラケルススの登場

パラケルスス、もしいテオフラストゥス・ボムバスト・フォン・ホーエンハイム(スイス)

生役しばらく消息不明だが、1512年イタリアのフェラーラ大学医学部を卒業、

その後ヨーロッパを遍歴したのち1527年にバーゼル大学教授・市医

パラケルススは錬金術を金變成でなく病気を治す医療装置の手段として見ており、世間もそれに追随していく

※余談: この時期にはルターの宗教改革→プロテスタントの発生もしており、

当時ヨーロッパの世間の改革ブームとリンクしたことがある。

↓
病気の原因を特定した上で、それぞれの病態に応じた医療が執られる1つ

体液病理説に基づいた滋養・処方の医学から、西洋医学に近い症状に合わせた医学へと変容していく

また医学以外にも多数の著作を残した、

錬金術関係だと「アルキドグニス」「鉄精の書」「ホムンクルスの書」

パラケルススという名前は「パラ」(超える)「ケルスス」(ローマ時代の医師)という意味があり、

実際当時からして革新的なものではあった

しかし当人の気質もあり学敵がまわめて多く、再び放浪したのちに

1541年にザルツブルグで死亡した、

・鍊金都市プラハ

・ルドルフ二世の宮廷

ハプスブルク家: スイスの名家、各国とパイプを持つことで繁栄した
貿易を独占することによる金銭的・文化的資産



ルドルフ二世が神聖ローマ帝国の帝都をウィーンからプラハへ移す。
地理的に様々な文化圏が接触しており、またルドルフ二世自身も芸術と科学を愛好していた

↳ 宮廷内には各分野の知識人が集っていた

↳ ルドルフ二世自身も鍊金術の金変成作業にかかわっていた

↳ 「驚異室」: 不思議なものの収集・展示室

プラハ城からウリツヴァ川に向かって鍊金術師が多数居住「黄金の小道」と呼ばれた

・ジョン・ディー

ジョン・ディー (イギリス): 文藝修士ではあるが優れた数学者

「ユークリッド幾何学原論」の英訳版

神秘主義についても明るく、数学・魔術・カバラ・鍊金術を総合した宇宙論

「象形文字の单子」を上梓

1584年 9月 プラハに移住、金変成や降霊術を行った

重くは天使の存在と天使の心



↓ 「天使」からの預言にインスピレーションを受ける

1586年 異端の嫌疑をかけられプラハからボヘミアのトジボーンに移住



1589年 ロンドンへ帰国

帰国中にバイシリヒ・ケーニグスラートの訪問を受ける

↳ 「永遠の知恵の円形劇場」: キリスト教の鍊金術的解釈

(「赤も玉」を創作・創出した)

マクロコスモスとミクロコスモスの接続

魔術・カバラ・鍊金術の強調

「対自身が鍊金術師である」という

熱狂したメッセージ

当の鍊金術師たちにとっても

困惑と批判を巻き起こした

・薔薇十字錬金術

・薔薇十字団の結成

錬金術の最盛期 → 1570年から50年ほど

(ルドルフ二世の治世とほぼ重なる)

ルドルフ二世が崩御した後、1612年ごろに薔薇十字団が結成

1614年に「友愛団の名声」1615年に「友愛団の告白」という宣言文章を発表

1616年に「クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結晶」という

それぞれ錬金術的な幻想小説が出版される

タイトルにもあるクリスチャン・ローゼンクロイツという人物が薔薇十字団の創始者として、実質この小説も宣言文章である

1378年～1484年の人物として、聖霊の家という本部で病人を治療していた

← ところが当時でも信じておける人はいたのではなかったが、ヘルクスでいう1460年の人物のみに……

1604年にローゼンクロイツの霊廟が発見され、その壁面には薔薇十字団の研究成果、学問的知識が記されていた (と主張をしている)

「アダムが失った楽園は、人間と社会が根本的に改革されることにより回復する」ルネサンスらしい主張

薔薇十字団の宣言の中で、「賢者の石による金変成は偽金づくりである」と明確に批判されている

パラケルスス同様錬金術と医療の手段として見ていた

シビエル・マイヤー (ドイツ) : 薔薇十字団宣言に呼応した錬金術師

1596年にバーゼル大学で医学博士

ルドルフ二世の治世下にプラハに在住、その後イギリスへ

(当時カトリック・プロテスタントの対立があったことを考えると、ドイツ人のマイヤーのイギリス渡航はかなり異例なこと)

生涯に11冊の錬金術書を出版した、